

阿賀野市商工業景況調査報告書

実施主体 阿賀野市商工業振興協議会
構成商工会名 安田商工会、京ヶ瀬商工会
水原商工会、笹神商工会

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 阿賀野市4商工会地区内小規模事業者等
イ 調査企業数 120 事業所 (うち小規模事業者数 118 事業所)
ウ 回答企業数 120 事業所 (うち小規模事業者数 118 事業所)
(回答率 100.0%)

(2) 調査対象期間

平成30年7月～平成30年12月
(調査時点 平成30年12月1日)

(3) 調査方法

経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

平成30年7月から12月までの半年間の経営実績と前年同期(H29年7月～12月)と前期(H30年1月～6月)との経営実績を比較した場合と来期(H31年1月～6月)の見通しについて調査を実施しました。

(4) 調査対象と回答企業の構成

| | 調査対象 | | 有効回答 | |
|-------|------|--------|------|--------|
| | 企業数 | 構成比 | 企業数 | 構成比 |
| 製造業 | 15 | 12.5% | 15 | 12.5% |
| 建設業 | 39 | 32.5% | 39 | 32.5% |
| 卸・小売業 | 28 | 23.3% | 28 | 23.3% |
| サービス業 | 38 | 31.7% | 38 | 31.7% |
| 合計 | 120 | 100.0% | 120 | 100.0% |

(5) 阿賀野市の商工業の構成状況 (平成30年4月現在)

阿賀野市の商工業者数は、1,813社(うち小規模事業者数は1,593社)となっています。

業種別では、製造業が207社(11.4%)、建設業が510社(28.1%)、卸・小売業が429社(23.7%)、サービス業(飲食・宿泊業含む)が582社(32.1%)その他85社の構成となっています。

この度の4商工会合同景況調査は、阿賀野市の小規模事業者等のおよそ7.5%にあたる120社の企業の方々からご協力をいただき実施したものです。

(注) 小規模事業者とは ⇒従業員が20人以下(商業・サービス業では5人以下)の事業者のこと

2. 地域内小規模事業者等の景況概要

阿賀野市内の小規模事業者の多くは、前年同期比、前期比において売上高、採算ともそれほど格差はなかったものの今後の見通しにおいては業種間における格差が拡大しているように見受けられます。また、資金繰りでは全業種で、雇用動向では業種によって今後の見通しの不安を抱えており、更に厳しい状況が予想されます。景況判断全体としては、一部の業種を除いては今後の景気回復にあまり期待がもてない小康状態の状況といえます。

【後継者の状況】

約半数を超える事業所で後継者がいない状況であり、事業承継や事業の継続性の観点からも近々の課題であり、早急な対策が必要と思われれます。

| | | |
|--------|-------|-------|
| 後継者 あり | 56事業所 | 46.7% |
| 後継者 なし | 64事業所 | 53.3% |

【売上高】

前年同期比においては、「増加」「不変」「減少」とも拮抗した回答でしたが、今後の見通しでは「不変」「減少」の回答が増加し、卸小売業、建設業の一部では健闘しているものの全体としては景気が低迷している状況であることが伺えます。

| 前年同期比 | | | 前期比 | | | 今後の見通し | | |
|-------|----|----|-----|----|----|--------|----|----|
| 増加 | 不変 | 減少 | 増加 | 不変 | 減少 | 増加 | 不変 | 減少 |
| 33 | 39 | 48 | 29 | 48 | 43 | 15 | 55 | 50 |

【採算】

前年同期比から次第に「好転」との回答が減少し、今後の見通しでは「不変」へと移行している状況が伺えます。業種を問わず採算性は、悪い方向へと推移しており、厳しい見通しが大半を占めています。

| 前年同期比 | | | 前期比 | | | 今後の見通し | | |
|-------|----|----|-----|----|----|--------|----|----|
| 好転 | 不変 | 悪化 | 好転 | 不変 | 悪化 | 好転 | 不変 | 悪化 |
| 25 | 51 | 44 | 23 | 56 | 41 | 15 | 64 | 41 |

【仕入単価】

業種全般において、仕入単価は「上昇」「不変」の回答が大半を占めており、利益や採算性を圧迫していることが伺えます。

| 前年同期比 | | | 前期比 | | | 今後の見通し | | |
|-------|----|----|-----|----|----|--------|----|----|
| 上昇 | 不変 | 低下 | 上昇 | 不変 | 低下 | 上昇 | 不変 | 低下 |
| 56 | 55 | 7 | 48 | 60 | 9 | 42 | 72 | 4 |

【販売（客）単価】

前年同期比、前期比、今後の見通しとも「不変」の回答が7割以上を占めており、客単価に大きな変化はなく今後も上昇を望めない状況にあります。そうした中「低下」と回答した5割以上はサービス業が占めており、業種間格差が表れています。

| 前年同期比 | | | 前期比 | | | 今後の見通し | | |
|-------|----|----|-----|----|----|--------|----|----|
| 上昇 | 不変 | 低下 | 上昇 | 不変 | 低下 | 上昇 | 不変 | 低下 |
| 17 | 73 | 30 | 16 | 75 | 28 | 11 | 87 | 22 |

【資金繰り】

前年同期比、前期比、今後の見通しとも「不変」の回答が多く、特に今後の見通しでは7割以上を占めています。「悪化」と回答している事業所は全業種でまんべんなくあり、業種を超えて今後の見通しに不安を抱えています。

| 前年同期比 | | | 前期比 | | | 今後の見通し | | |
|-------|----|----|-----|----|----|--------|----|----|
| 好転 | 不変 | 悪化 | 好転 | 不変 | 悪化 | 好転 | 不変 | 悪化 |
| 7 | 84 | 28 | 9 | 82 | 27 | 5 | 90 | 24 |

【雇用動向】

前年同期比、前期比、今後の見通しとも「不変」の回答が圧倒的に多く、全体の8割を超えており大きな変化は見受けられません。ただ業種によっては人材不足が表面化しているところもあり、今後の動向を見守る必要があります。

| 前年同期比 | | | 前期比 | | | 今後の見通し | | |
|-------|-----|----|-----|----|----|--------|-----|----|
| 増加 | 不変 | 減少 | 増加 | 不変 | 減少 | 増加 | 不変 | 減少 |
| 3 | 100 | 16 | 4 | 98 | 16 | 3 | 100 | 16 |

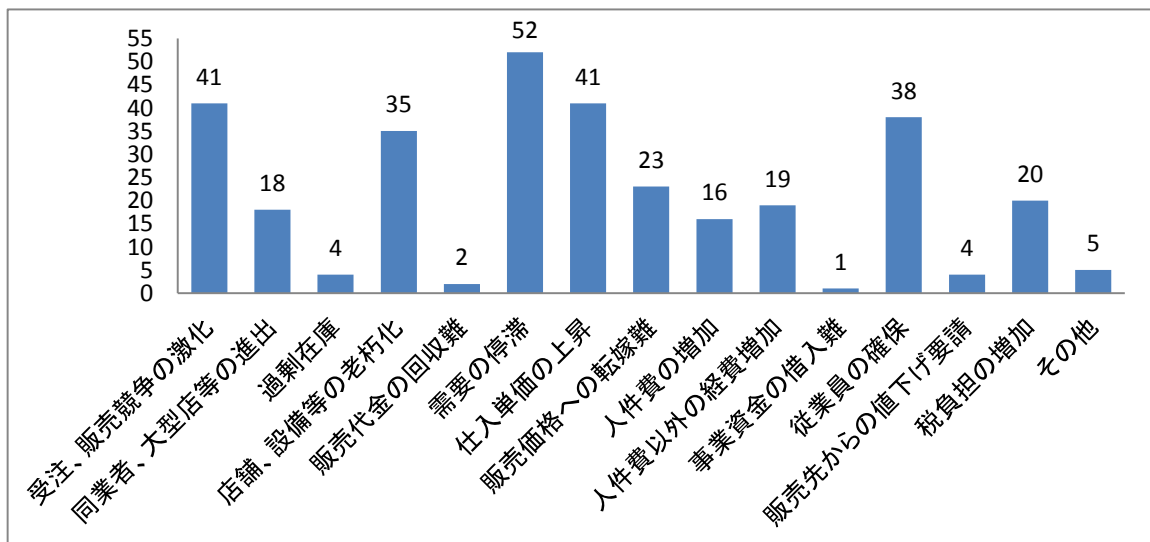
【景況判断】

前年同期比、前期比、今後の見通しとも「不変」「悪化」が同水準で推移、約9割に達しており、厳しい景況感を反映しています。しかし、業種別にみると建設業の一部では「好転」との回答もあり全体としては小康状態の状況といえそうです。

| 前年同期比 | | | 前期比 | | | 今後の見通し | | |
|-------|----|----|-----|----|----|--------|----|----|
| 好転 | 不変 | 悪化 | 好転 | 不変 | 悪化 | 好転 | 不変 | 悪化 |
| 12 | 67 | 38 | 11 | 75 | 32 | 11 | 67 | 41 |

【経営上の問題点】

「需要の停滞」が全業種を通じて最も多く、現在の景況感を反映しています。次いで「受注、販売競争の激化」、「仕入単価の上昇」が続く、収益や採算を圧迫している現況が伺えます。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

製造業においては、「売上高」「採算」とも前年同期比では「増加」・「好転」「不変」「減少」・「悪化」が拮抗していましたが、今後の見通しでは「不変」「減少」・「悪化」がほぼ全体を占めており先が見通せない現況となっています。

また、「資金繰り」「雇用動向」「景況判断」においても「不変」・「悪化」の回答が多く、約半数の事業所で後継者がいないこともあり、先行きに不安を抱える事業所が多くなっています。

経営上の問題点では、「需要の停滞」「仕入れ単価の上昇」と併せ、「販売価格への転嫁難」を挙げる事業所が多くあります。

(2) 建設業

建設業では、「売上高」「採算」とも前年同期比、前期比において好調を維持している事業所が多くありましたが、今後の見通しでは「減少」「悪化」と回答する事業所が増えており、多少陰りが見え始めた状況となっています。

また、「資金繰り」「雇用動向」「景況判断」においては、「不変」との回答が多数を占めていますが、景況判断の今後の見通しでは2割程度が「好転」との回答を寄せています。

経営上の問題点では、業界全体で以前から言われている「従業員の確保」が最も多く、次いで「受注、販売競争の激化」「需要の停滞」が挙げられています。

(3) 卸・小売業

卸・小売業では、「売上高」「採算」とも「不変」「減少」・「悪化」が7、8割を占めており、前期から景況感が低迷したままあまり変わらない傾向を示しています。

また、「資金繰り」「雇用動向」「景況判断」においても同様の傾向を示しており、6割を超える事業所で後継者がいないことも相まって今後の見通しも好転する傾向が感じられない厳しい状況といえます。

経営上の問題点では、「仕入れ単価の上昇」「店舗、設備等の老朽化」「需要の停滞」が多数を占めています。

(4) サービス業

サービス業では、「売上高」において「減少」と回答した事業所が「不変」を上回り、長引く消費活動の低迷によるこの業種の景況感を反映しています。

また、「資金繰り」「雇用動向」「景況判断」においても「不変」「悪化」・「減少」との回答が大多数を占めており、景気回復の期待感はなく、低迷状態が予想されます。

経営上の問題点では、「需要の停滞」「店舗、設備等の老朽化」「受注、販売競争の激化」などが数多く挙げられています。

